

Q1：体温が40℃近くもあって心配です。脳に障害が起こりませんか？

A1：体温が高いだけでは脳に障害はおこりません。ただし稀に高熱を出した子どもの脳に障害が残ることがあります。そのほとんどの場合の原因は脳炎や脳症、髄膜炎といった脳に直接影響のある病気です。これらの病気と風邪などは熱の高さでは区別できません。全身状態、意識状態などの評価が必要です。

Q2：解熱剤は座薬と飲み薬でどちらがよいのですか？

A2：どちらも効果は同じです。座薬の方が早く効果がでるかもしれませんが、大きな差ではありません。3歳以上は座薬を嫌がることが多く、抵抗すると力も強いため一人で座薬を挿入するのが難しくなるので、飲み薬が好まれます。0歳～2歳では投薬に便利のため座薬を希望されることが多いですが、飲み薬でも構いません。

Q3：どうして風邪をひくとこどもは熱を出すのでしょうか？

A3：病原体（ウイルス、細菌）は熱に弱いので、熱を出すことによって病原体が増えるのを抑えて早く病気を治そうとします。発熱は生体防御反応の一つです。

Q4：解熱剤は使ったほうがよいのですか？

A4：発熱の期間が短い場合は使っても使わなくても大差はありません。38.5℃以上で高い熱でつらそうなとき、間隔を6時間以上あけて、1日2回までの範囲で使用できます。発熱が4日以上続く場合で水分や食事の摂取が不良な場合は積極的に解熱剤を使用した方がよいでしょう。高熱の時に寝付きがよくなる子どもと眠りが浅くなる子どもがいます。眠りが浅くなる子どもさんが高熱の場合、寝る前に解熱剤を使うと親子とも睡眠がとりやすくなるため有益だと思います。

そのほか、ホームページ Q&A に記載しています。ご覧ください。

Q5：熱性けいれんが怖いので解熱剤を使って熱を下げた方がよいのでしょうか？

Q6：体温が高いときの副の着せ方はどのようにしたらよいですか？

Q7：解熱剤が効かなかったのが心配です。

Q8：子どもが熱を出したときにお風呂に入れてよいのでしょうか？

Q9：冷却シートは使った方がよいでしょうか？

Q10：体温計の選び方を教えてください。

Q11：体温測定の注意点はありますか？